

日本鐵鋼協會記事

理事會 8月7日(水曜日)午後4時30分開會 出席者 服部 漸君 河村 驍君 種子田右八郎君 川上編輯委員 **協議事項** 1. 本會第四回講演大會開催準備進行に關する件、2. 入退會者承認 3. 其他會務に關する諸件等にして午後7時閉會す。

編輯委員會 7月18日(水曜日)午後5時開會 出席者 川上義弘君 室井嘉治馬君 足立泰雄君 三島徳七君 鹽澤正一君 **協議事項** 前回7月2日開催に於て決定したる鐵と鋼第十四年第八號掲載原稿を都合上變更に關し協議せり、午後7時閉會。

入會者承認濟

居所又は宛名先	勤務先並職業	會員別	氏名	紹介者
岩手縣釜石町釜石鑛業所合宿	釜石鑛山會社 釜石鑛業所員	正	青木正造君	中田義算 村松橋太郎
〃	〃	正	緒方正一君	中田義算 村松橋太郎
宮城縣仙臺市米ヶ袋上町二四	東北帝大工學部教 授工學博士理學士	正	石原富松君	本多光太郎 河村驍
橫濱市鶴見區潮田町 淺野造船所製鐵部	同所技師	正	植村己熊君	大河村正篤 河村驍
〃	〃 工學士	正	佐久間友二君	〃
福岡縣小倉市古船場町一四六	淺野小倉製鋼所 技師工學士	正	中村爲嗣君	末兼要 河村驍
兵庫縣御影町橙	三菱神戸造船所造機部 工學士	正	關川貞雄君	佐々木清一 小川清
神戸市板宿町三丁目一ノ一七	三菱神戸造船所技師 工學士	正	池神重徳君	佐々木清一 小川清
岩手縣釜石町釜石鑛業所	同社員	正	大貫富藏君	中田義算 藤村哲之
神戸市東須磨鐵道局官舎	大阪鐵道局鷹取工場長	正	齋藤勇君	荒野木村 山岡武
福岡縣八幡市製鐵所化工部骸炭課	八幡製鐵所骸炭課	准	田中政六君	山岡武
岩手縣釜石町釜石鑛業所	釜石鑛業所社員	〃	伊香賀照治君	中田義算
〃	同上工學士	〃	細井市藏君	〃
仙臺市東北帝大金屬材料研究所	廣島縣商品検査所勤務	〃	山中登美雄君	大屋庄吉
神奈川縣鎌倉町材木座二〇八	海軍機關大尉	〃	山口文藏君	河村驍
神戸市外西灘村原田大井手八八ノ四	神戸製鋼所合金工場	〃	小河彰君	村松橋太郎
大阪市西淀川區傳法町南二丁目	日本亞鉛鍍金會社	〃	岡村貞良君	佐藤慶二郎
福岡縣小倉市許斐町淺野小倉製鋼所	同所勤務	〃	有馬久君	末兼要
〃	〃	〃	芝貫介君	〃
兵庫縣武庫郡西灘村上野一七六 南吉太方	神戸製鋼所製鐵部	〃	永岡武夫君	河村驍

神戸市脇濱町神戸製鋼所製鐵部	"	"	林 康 作君	淺田 長平
岩手縣釜石町釜石鑛業所	同 社 員	"	戸 田 荒 吉君	中田 義 算
神戸市和田崎町三菱神戸造船所	同所 化學分析	"	石 橋 貞 一君	佐々木 孝
神戸市西須磨中流川五	三菱神戸造船所造機部	"	森 九 吉君	佐々木 孝
神戸市稻葉町三ノ三七	三菱神戸造船所材料試験所	"	内 田 正 穂君	佐々木 孝
神戸市外鷹取大阪鐵道局鷹取工場	大阪鐵道局鷹取工場	"	吉 田 虎 雄君	荒 木 宏
"	"	"	北 岡 弘君	"
神戸市東須磨鷹取大阪鐵道局鷹取工場	同 所 勤 務	"	大西信三郎君	荒 木 宏
福岡縣戸畑市小澤見官舎一二號	製鐵所戸畑作業所	"	入 江 定 男君	一本木 清三
福岡縣戸畑市小見澤官舎	"	"	田 中 辰 助君	"
" 三二號	"	"	大 谷 猛君	"
" 三五號	" 技手	"	服 部 宗 一君	"
" 六九號	" 技手	"	大塚藤三郎君	"
"	" 技手	"	新 井 英 二君	"
" 三八號	" 技手	"	筑 紫 進 一君	"
退會者承認濟 正會員 横 田 榮 吉	"	高 橋 鈴 彦	准會員 樋 口 重 友	
平 山 清 人	"	原 田 正 一	" 鈴 木 敏 郎	
今 井 勝 次	"	三 津 谷 勝 三		

死亡會員

本會准會員 久住辨二君逝去せらる
同氏の逝去は哀悼の至りなり茲に弔意
を表す

東京市況—安保合 アントワープの罷業解決が海外の強氣材料となり、1,2 志方上伸し、其上爲替の稀有の軟化もあるが地場には相當の影響もあつて然るべき筈と思はれるが、目先の不需要期には勝てず、其上未だ相當の利鞘を見て居る故、賣腰 1 段と軟弱となり、爲に安保合の商狀である。特に突飛な暴騰を演じたものは些少な入荷や、2, 3 月の需要不振が、實質以上の弱氣材料となつて兎角下放れたるが形勢にあると云はれてゐる。大阪方面も例年の祭禮月も響いて市況閑散在庫薄ではありながら一般に、東京よりも猶鈍調と云はれて居る。

丸鋼。6 分以上は概して保合つて居るが 4 分は入荷と共に逐次に下押し目先も弱い様である。問題の 3 分も中旬に到り僅少の入荷の爲 4 圓 80 錢と下放れたが、頃日當所第 3 發電所の故障から 8 月一杯は第 3 小形工場が $\frac{1}{3}$ の減産をなす爲 3 分も積出後れとなるであろうと市場に流言があつた爲一舉に 20 錢方の躍進を見せた。成程發電所の故障はあるが生産には何等の影響もなく、20 日より月末迄には東京揚げの 3 分だけでも約 1,200 吨の入荷を見る豫定であるから、寧ろ今迄の品ガスレも幾分緩和せられるであろう。

角、平。角の $9m/m$ 平の $1\frac{1}{2}$ ", 2" が品薄の爲戻りとして居るが其他は落付き様様である。

型鋼。等山 $59m/m$, 65, 75, は品の出廻り豊富な上、需要減退を見て益々軟調である。溝、工の軌條工場物の強調は未だ續けられて居るが其外は大體に安保合を續け此處暫くは好轉の氣運も恵まれまいと見られて居る。

鋼板。1.6 は好調を逆つて居るとは云ふものゝ、それとて需要不活潑の爲腰弱く 3.2 は幾分下押しを見せ厚板も一向冴えず小緩みの商狀である。

線材。氣配何となく軟弱の處へ釘、針金の不味の影響もあつて東西共に下押し氣味と見られて居る。